

## 批判的思考態度尺度の基礎研究と教育実践への利用可能性

企画	沖林洋平 (山口大学教育学部)
司会	犬塚美輪 (大正大学人間科学部)
話題提供	沖林洋平 (山口大学教育学部) 藤木大介 (梅光学院大学子ども学部) 平山るみ (大阪音楽大学)
指定討論	楠見 孝 (京都大学大学院教育学研究科) 田邊敏明 (山口大学教育学部)

批判的思考は、近年、高等教育や市民教育の文脈で重要だと考えられるようになった思考の機能のひとつである。批判的思考に関する研究は、教育心理学や教育工学領域では、論文が発表されるようになってきている。また、認知心理学の専門書においても、章立てられるようになってきている。このような傾向は、批判的思考が思考の応用的機能を研究するにあたって現代的に重要であることを示唆するものであるといえるだろう。

批判的思考研究において最も多く用いられる定義としては、Ennisの「信じるべきことや行うべきことの決定に重点を置く、反省的、理性的思考」というものである。これは従来の研究で多く扱われてきた効率的な問題解決過程に適用される思考、例えば推論やヒューリスティック、あるいは、近年 Stanovich(2009)が指摘する自律的思考過程といった諸機能とは異なるアプローチである。また、最近では、批判的思考の態度の個人差(平山・楠見, 2004)やメタ認知としての批判的思考の個人内変動(田中・楠見, 2007)に関する研究も行われるようになった。さらに、目標や目的に応じた文章読解としての批判的読解(犬塚, 2010; 沖林, 2004)に対する効果的な教育的介入や、食品や環境に対するリスク認知(平山・楠見, 2009; 上市・楠見, 2009)のような、教育や社会問題に対する批判的思考の応用研究も発表されるようになった。

このような批判的思考に関する研究において、現在わが国で最も多く利用されている尺度が批判

的思考態度尺度(平山・楠見, 2004)である。批判的思考態度尺度は、批判的思考態度を構成する下位因子として、「論理的思考への自覚」、「探究心」、「証拠の重視」、「客観性」を設定し、質問項目数も18項目と利用しやすい尺度であり、開発者以外の研究者による応用研究も多い(例えば、藤木・沖林, 2008 など)。このように、批判的思考態度尺度は、批判的思考研究に欠かせない測定ツールであるとなっている。本シンポジウムでは、批判的思考の基礎研究と教育実践に対して、批判的思考態度尺度の利用可能性を検討することにより、今後の批判的思考研究に対して、基礎研究や教育効果測定の新しい視点を提供することを目指す。

具体的には、批判的思考態度尺度を取り巻く問題について、複数の研究者による話題提供と指定討論をもとに議論を深めたいと考え、本ワークショップを企画した。話題提供の視点としては、批判的思考の測定尺度研究の成果(平山)、批判的思考態度と保育者養成課程に属する学生の保育の視点の豊かさとの関連(藤木)、批判的思考態度と合理性判断課題や社会的行動の関連(沖林)を予定する。また、話題提供に対する教育心理学の先端的研究に基づく指定討論を中心として議論を深めることを目指す。指定討論者の楠見は、批判的思考の認知的構成要素と教育実践に関する多くの研究を展開している。同じく田邊は、メタファーに代表されるような推論過程や言語活動の教育的応用に関する研究を行っている。司会者は、これまで

に、説明文読解方略尺度の開発や、説明活動や相互モニタリングなどのメタ認知活動を組み込んだ学習指導プログラムを開発している有効性を指摘している犬塚が担当する。

#### 批判的思考の測定尺度研究の成果（平山るみ）

批判的思考を行うためには、情意的側面としての態度、そして認知的側面としての能力やスキルが必要と言われてきた。それらの要素の一つである批判的思考態度の性質を明らかにすることが、批判的思考態度の、そして批判的思考力のさまざまな角度からの支援を検討する足掛かりとなるであろう。そこで、批判的思考態度と他の要因との関わりを多面的にとらえるために、批判的思考態度尺度と次の3つの特性との関係性を検討した研究を紹介する。

第1は、知識や学習に関する認識論的信念や思考の傾向性との関係性を、第2には、教育歴や専門領域などとの関係性を検討したものである。そして第3は、批判的思考の認知的側面を測定するための能力尺度との関連性を検討したものである。これらの研究結果から、批判的思考を支援するためにはどのような角度から、どのような教育実践を行うことができるかを、考えていきたい。

#### 保育者養成課程に属する学生の保育の視点の豊かさとの関連（藤木大介）

藤木は批判的思考態度と保育実践に関わる能力との間に関連があるのかを検討した。保育者に求められる重要な能力の1つとして、保育に関わる視点の多さがあげられる。なぜなら、保育実践では常に子どもや環境に注意を向け、すべての瞬間で保育者としてとりうる行動や判断の中から子どもの育ちにとって最善と思われるものを選択し続ける反省的实践力が求められるからである。また、「既存のモデルの踏襲」ではなく「創造的に課題解決していく能力」が求められる現代では、子どもたちの創造的な課題解決に必要な力を育成する保育者自身にも創造的課題解決力が求められるからでもある。このような反省的实践を行える能力

や創造的な課題解決ができる能力を支える基礎的な能力としては批判的思考力があげられる。そこで本研究では、批判的思考を行おうとする態度が保育者養成課程の学生の保育の視点の豊かさに影響しているのかを検討した。その結果、批判的思考態度尺度の探求心の因子と保育における視点の豊かさとの間で弱い関連性が認められた。批判的思考を行おうとする一般的な態度と、保育実践において多面的な視点が持てるという具体的な能力との間では、強い関連は見られないが、無関連でもないということが伺える。

#### 読解過程や読解指導における批判的思考力と批判的思考態度の関連（沖林洋平）

沖林は、これまで、主として大学生における専門的文章読解における批判的読解方略の有用性と、その教育的支援活動に関する研究を行ってきた（沖林、2004、2005など）。井上(1998)は、現実の文章に即して設定した一定の規準（情報の真偽性・妥当性・適合性）に対応させて分析的に読むことの重要性を指摘している。状況に即応した読解力とは、高水準リテラシーとしての批判的読解力であると位置づけられる。

批判的読解には、高水準リテラシーとしての批判的思考力や批判的思考態度が関連すると考えられているが、読解活動を反映した変数と平山・楠見(2004)の批判的思考態度の関連を直接的に検討した研究例は、これまでには行われていないと思われる。一般的な推論課題と批判的思考態度は、無相関、あるいは弱い相関がみられる場合が多いが、専門的文章の読解活動に適用される読解方略は、一般的な推論課題とは全く同じではない可能性がある。

そこで、本話題提供では、話題提供者のこれまでの研究や教育実践を振り返ることを通して、読解等に求められる高水準リテラシーと批判的思考態度はどのように関連するかを推測することにより、批判的思考態度の利用可能性を検討する。